

# 小林和作の世界

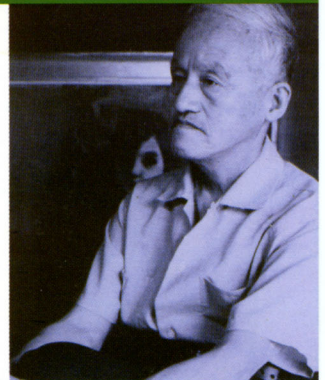


2007

9|22<sub>土</sub> ➡ ➡ 10|14<sub>日</sub>

休館日：月曜日〔9月24日(月・祝)、10月8日(月・祝)は開館〕  
 開館時間：午前9時～午後5時〔入館は午後4時30分まで〕  
 〔9月29日(土)は午後8時まで開館(入館は午後7時30分まで)〕  
 観覧料：大人一般300円、高・大生200円、中学生以下無料  
 〔団体20名以上は各50円引〕  
 主催：尾道市立美術館  
 後援：広島県教育委員会・NHK広島放送局・中国新聞備後本社

尾道ゆかりの洋画家「小林和作(1888年生～1974年没・本市名誉市民)の世界」を、尾道市立美術館所蔵作品を中心に、約70点の作品で展覧します。日本画家を志した「京都時代」から、洋画に転向した「東京時代」、画家としての過半を過ごした「尾道時代」まで、それぞれの時代の名品をご堪能ください。くわえて、小林和作と親交のあった三次市大慈寺の本堂を飾る、希少な襖絵(日本画)を、美術館で初めて公開します。



## 会期中の催し物案内

- 9月23日〔日〕「学芸員による列品解説」午後2時～
- 9月29日〔土〕灯りまつり協賛「ミュージアム・コンサート」〈ピアノ 岡田菜穂子〉  
午後6時30分～午後7時30分 ※当日は、夜間開館日です。
- 10月4日〔日〕「わいわい がやがやおしゃべり鑑賞会」午後2時～午後3時
- 10月13日〔土〕特別講演会「作画のよろこび」午後3時～〈講師 日本芸術院会員 清原啓一〉
- 会期中随時 「和作に挑戦 ぼんぼりに和作の絵を描こう」  
 ※会期中、開館時間内のいつでも参加できます。  
 ※ぼんぼりは、「灯りまつり」当日に美術館周辺に設置します。

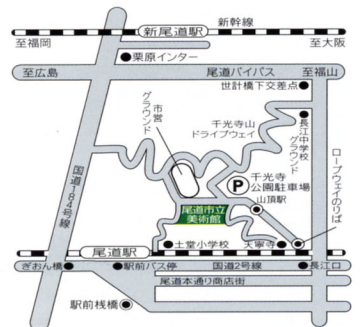
参加・申込み等：無料・当日入館者を対象(申込み不要) 詳細については尾道市立美術館にお問い合わせください。

### ご利用案内

- JR山陽本線「尾道駅」から、東行きバス(①番のりば)で「長江口」下車、ロープウェイで「千光寺公園」へ。(ロープウェイのりばで、「往復乗車券+観覧券」のお得なセット販売をご利用ください。)(市バス「千光寺公園」直行便は便数が少ないのでご注意ください。)
- お車の方は、千光寺山ドライブウェイ経由で「千光寺公園駐車場(有料)」へ。(入館の際に駐車券をご提示ください。当日券を1名様限り100円割引いたします)
- JR山陽本線「尾道駅」、JR山陽新幹線「新尾道駅」からタクシーで約15分。



尾道市立美術館 〒722-0032 尾道市西土堂町17-19千光寺公園内  
 Tel.0848-23-2281 Fax.0848-20-1682



### 近隣美術館情報

■ ふくやま美術館  
 「ぐりとぐらとなかまたち  
 山脇百合子絵本原画」展  
 9月22日〔土〕～11月11日〔日〕  
 ■ 広島県立美術館  
 「生誕100年 観光」展  
 8月10日〔金〕～10月8日〔月・祝〕

■ (財)ひろしま美術館  
 「野田弘志～写実の彼方に～」展  
 9月15日〔土〕～10月21日〔日〕  
 ■ 岡山県立美術館  
 「坂田一男」展  
 9月28日〔金〕～11月6日〔火〕  
 ■ (財)大原美術館  
 「この1点 児島虎次郎《ベゴニアの蟲》」展  
 9月11日〔火〕～12月24日〔月・祝〕

■ 愛媛県美術館  
 「国立ロシア美術館展 ロシア絵画の真髄」  
 10月3日〔水〕～11月11日〔日〕  
 ■ 島根県立美術館  
 「モディリアーニと妻ジャンヌの物語」展  
 9月29日〔土〕～11月5日〔月〕

■ (財)平山郁夫美術館  
 「平山コレクション特別展示 シルクロード至宝」展  
 9月1日〔土〕～12月28日〔金〕  
 ■ 豊後記念館  
 「團扇勝三 彫刻のすべて」  
 9月4日〔火〕～11月25日〔日〕  
 ■ なかた美術館  
 「なかた美術館コレクション 花」展  
 9月4日〔火〕～12月29日〔土〕

### 次回展覧会予告

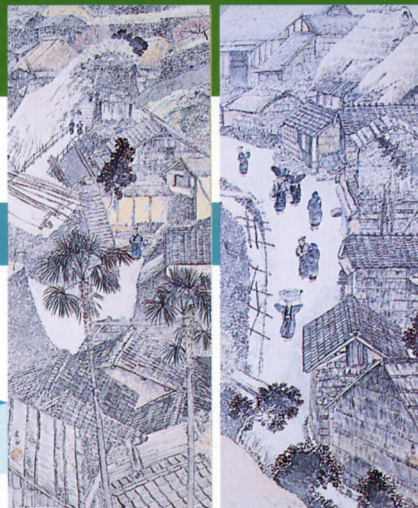
大正シック

ホノルル美術館所蔵品より

2007年10月20日〔土〕～12月16日〔日〕



# 小林和作の一生を絵でたどってみよう!



《志摩の波切村》

明治時代

1888年

山口県の瀬戸内海ぞいのまち、秋穂村（現在は山口市）に生まれる。子どものころから、本をよむことや、絵を描くことが大好きでした。

1904年 16才 絵の勉強のため、京都に出発!

京都で日本画を学ぶ。

絵の学校に入学。ここには、のちに尾道で出会う日本画家、森谷南人子もりたになんしんしがいました。

このころの和作さんは、「霞村」という名前で日本画を描いていました。

1913年 25才

日本画を描くことに、むいていないのかなと思いはじめます。

海ぞいの村のようすを細かく描いているよ。

大正時代

東京で、いろいろな洋画家たちの絵を研究。

1922年 34才 東京の洋画家たちの絵に感動。洋画家をめざして東京へ!

1925年 37才

洋画家の林武はやし たけし、梅原龍三郎うめはらりゅうざぶろう、中川一政なかがわかずまさに絵を習いました。

春陽会しゅんやうかいという展覧会で賞を受けた絵だよ。

1928~29年 40~41才

絵の勉強のため、ヨーロッパを旅行しました。フランスでは、大好きな画家、セザンヌのふるさとプロヴァンスに半年も居ました。

1928年 40才

イタリアのセレブな観光地を描いた絵だよ。

1931年 43才

山口の実家が破産して、東京を離れる決心をしました。

このころは、なぜか、くだもの畑の絵を多く描いているよ。



《輕井沢の春 (其の1)》



《アマルフィ風景》



《洋梨の畑》

1934年 46才 ふるさと秋穂に帰ることが気はずかしく、尾道へ!

尾道で、自分だけにしかできない、うつくしい色(色彩)や形(構図)をした風景画を完成させてゆきました。

秋穂の風景に似た尾道に住みはじめました。

1935年 47才

雨をみどり色で描いているよ。

1948年 60才

もみじや黄色くそまった木々と、水の流れや遠くの山の青がきれい。

向島の風景で、右上の山は高見山。美術館からよく見えるよ!

色彩 (しきさい)



《紅葉と箕》

構図 (こうず)



《日照雨》

うつくしい風景を探しもつめて日本全国を旅しました。

1966年 78才

海岸線を斜めに描くことで、海の力強さを表現したのかな。



《海 (三浦半島)》

1974年 旅行中の大ケガがもとで、86才で亡くなる。

1978年 尾道市の名誉市民となる。(美術館の横に名誉市民の碑があるよ。)

尾道の人たちと親しくなるにつれて、このまちのことが、もっと好きになり、いつまでもここに住みたいと思うようになりました。



小林和作と森谷南人子

小林和作さんのお墓は、西国寺にあるよ。今も生きていたら来年120才になります!

※日本画は、墨すみや岩絵具いわえぐなどを用いて描く日本の伝統的な絵画。

洋画は、明治時代にヨーロッパから本格的に導入された油彩画ゆさいや水彩画すいさいなどをいいます。